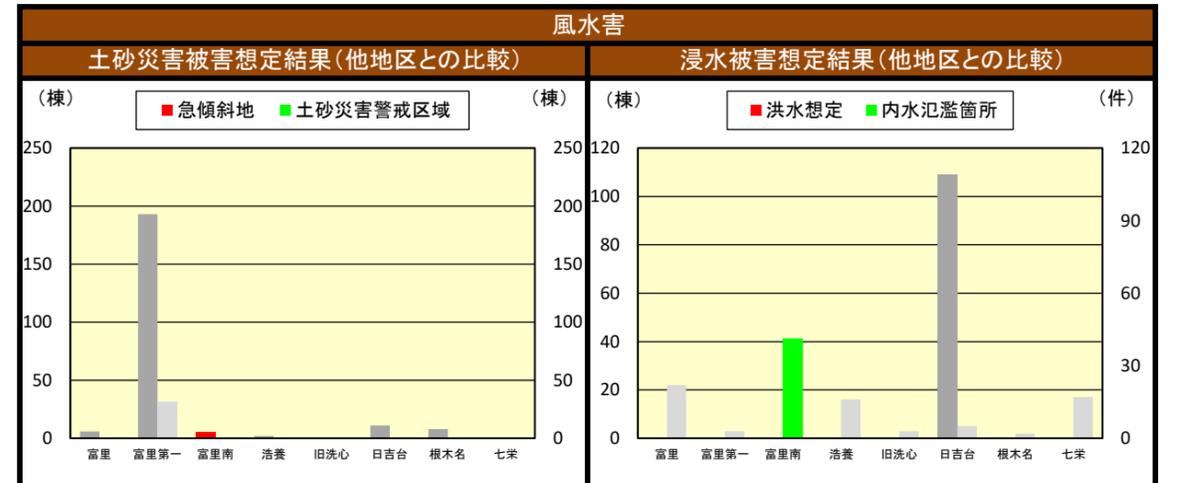
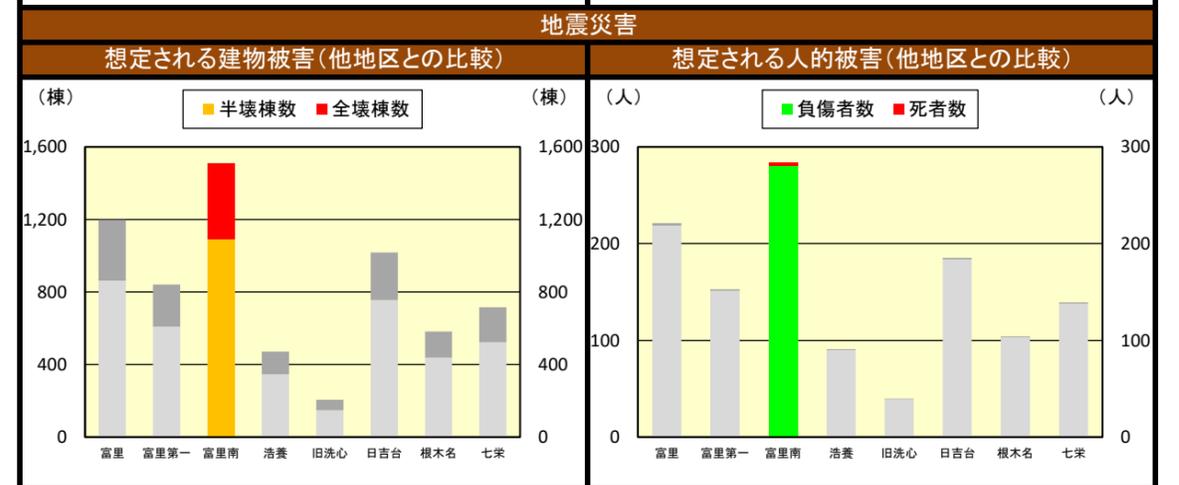


風水害						
土砂災害結果	箇所数(箇所・地区)	重なる面積(ha)	避難の対象世帯数(世帯)	避難の対象者数(人)		
	急傾斜地崩壊危険箇所	1	0.31	1	2	
	土砂災害警戒区域	0	0.00	0	0	
	うち特別警戒区域	0	0.00	0	0	
	山腹崩壊危険地区	0	0.00	0	0	
浸水被害想定	根木名川浸水(洪水)想定区域		内水氾濫箇所			
	小学校区(a)	市全体合計(b)	内水氾濫種類	小学校区(a)	市全体合計(b)	
	浸水面積(km ²)	0.00	0.11	床上浸水(棟)	3	15
	浸水する建物数(棟)	0.00	109.00	床下浸水(棟)	38	94
	避難の対象者数(人)	0.00	332.49	道路浸水(箇所)	4	26



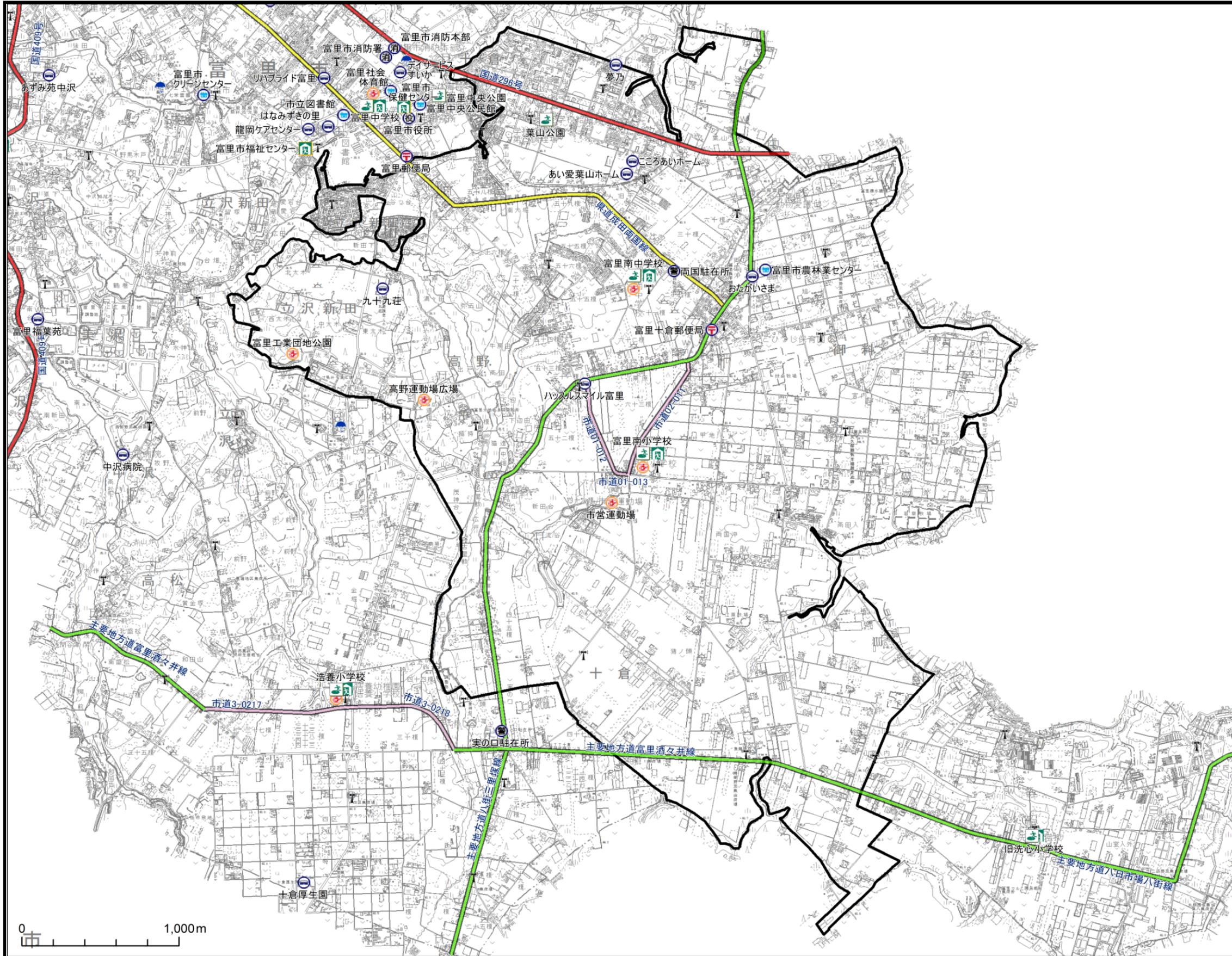
地震災害										
地震被害想定結果	震度階級					液状化危険度				
面積(km ²)	0.00	0.00	14.99	0.00	0.00	13.06	0.00	1.92	0.00	
面積率(%)	0.00	0.00	100.00	0.00	0.00	87.17	0.00	12.83	0.00	
建物被害(棟, 出火件数のみ)					人的被害(人)					
小学校区(a)					市全体合計(b)					
割合(a/b)					割合(a/b)					
木造全壊	407	1,751	23.23%	死者数	3	11	24.45%			
木造半壊	1,072	4,766	22.50%	負傷者数	279	1,190	23.47%			
非木造全壊	17	60	28.48%	重傷者数	43	181	23.92%			
非木造半壊	30	160	18.99%	避難者数	909	4,646	19.57%			
焼失棟数	2	7	22.69%	避難所避難者数	545	2,788	19.57%			
上水道断水人口(人)					下水道支障人口(人)					
断水人口					支障人口					
小学校区(a)					市全体合計(b)					
割合(a/b)					割合(a/b)					
断水人口	3,992	25,672	15.55%	支障人口	141	1,053	13.38%			



注 地震被害想定結果の建物被害、ライフライン被害は、冬18時強風時、死傷者数は冬深夜強風時の結果
 避難所避難者数、断水人口、下水道支障人口は、地震発生直後の結果

災害の種類	災害の評価(%)	数値	順位	評価指標	
風水害	土砂災害	土砂災害の影響を受ける避難人口率 ※避難対象人数(人)/地区の総人口(人)	0.0	6	<p>グラフの見方: 評価指標は、上記の災害の種類を、災害の評価に基づき、パーセンテージで表したものです。グラフの九角形面積が広いほど、地域が総合的に「災害に弱い」ことを示しています。</p>
	浸水(洪水)	洪水の影響を受ける避難人口率 ※避難の対象者数(人)/地区の総人口(人)	0.0	2	
	浸水(内水氾濫)	建物が内水氾濫の影響を受ける被害率 ※床上床下浸水合計棟数(棟)/地区全体建物数(棟)	0.7	2	
地震被害	地盤被害	液状化の被害面積率 ※危険度15<PL(m ²)/地区全体面積(m ²)	0.0	6	
	建物被害	地震による建物被害率 ※全壊棟数(棟)/地区全体建物数(棟)	7.0	3	
	火災被害	火災による建物被害率 ※焼失棟数(棟)/地区全体建物数(棟)	0.0	3	
	人的被害	地震災害による死傷人口率 ※死傷者数(人)/地区全体人口(人)	2.9	4	
避難者	地震災害による避難人口率 ※避難所避難者数(人)/地区全体総人口(人)	5.6	3		
避難行動要支援者	避難行動要支援者率 ※避難行動要支援者数(一次名簿のみ)(人)/地区全体総人口(人)	7.5	3		

地区の災害特性	防災対策の方向性
風水害	<ul style="list-style-type: none"> ●校区の中心から西側に、急傾斜地崩壊危険箇所が1箇所存在する。 ●内水氾濫の被害は一番多く、主に校区中心や中心から東に位置している。
地震被害	<ul style="list-style-type: none"> ●内水氾濫箇所は、雨水排水機能の強化が必要である。 ●急傾斜地崩壊危険箇所の対策工等の整備が必要である。 ●大雨等による風水害に備え、日ごろから避難体制(特に要配慮者への支援)の整備を進める必要がある。
風水害	<ul style="list-style-type: none"> ●富里市直下の地震が発生した場合、全域で震度6弱の強い揺れが想定される。 ●校区内の低地では液状化の危険性がある。 ●建物の全壊率は3番目に高い。 ●死傷者率は4番目に高い。 ●校区の避難所避難者数は545人に対して指定避難所の収容人数は720人であり収容力は十分である。 ●避難行動要支援者率は3番目に高い。
地震被害	<ul style="list-style-type: none"> ●昭和56年以前の建物には耐震化や家具の固定等を行う必要がある。 ●木造建物の不燃化として、沿道建物の不燃化等の推進を図る必要がある。 ●日ごろから避難訓練への参加や家庭内備蓄を行う必要がある。 ●避難行動要支援者の割合が高く、避難時に支援が必要となる。

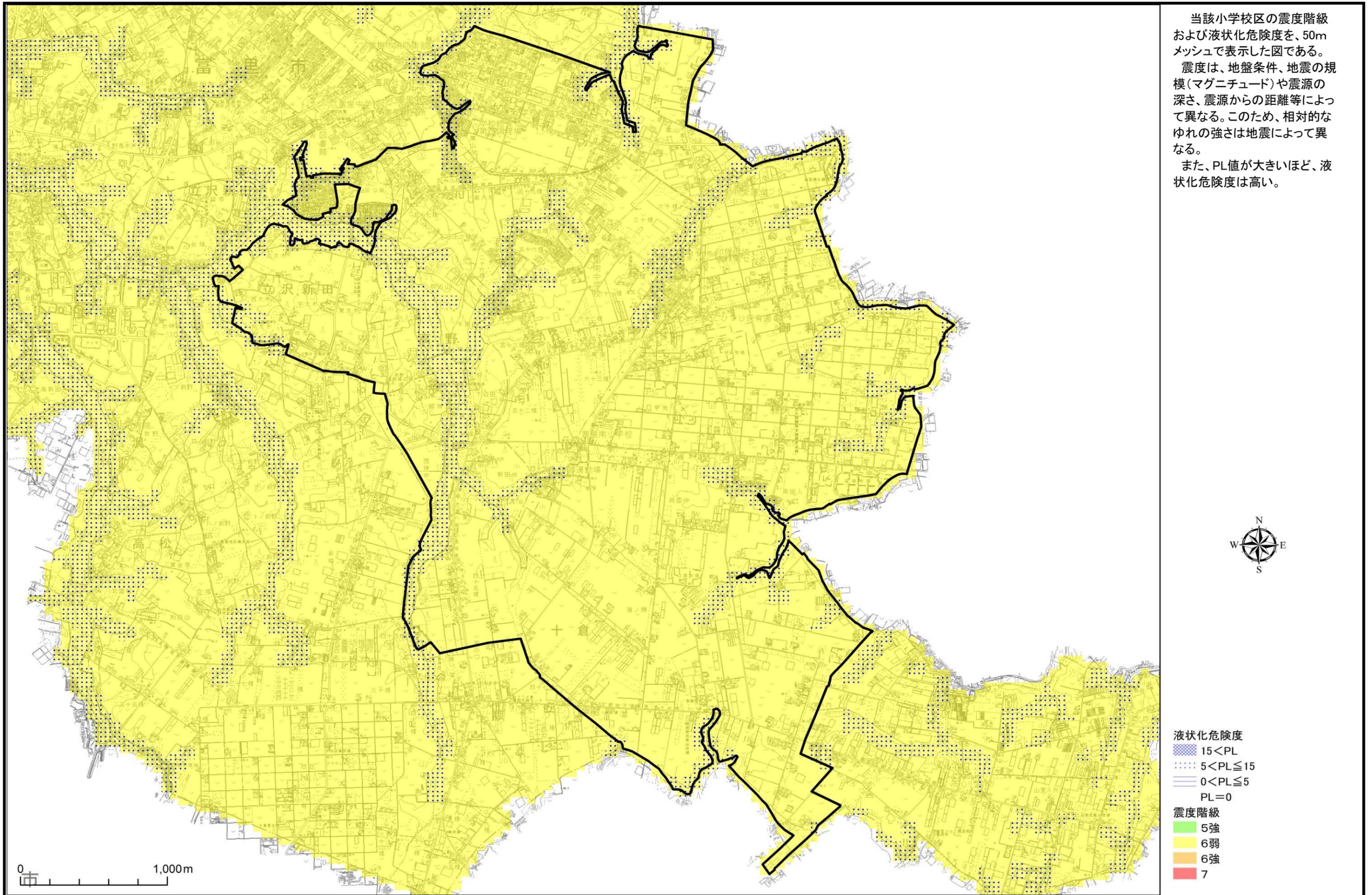


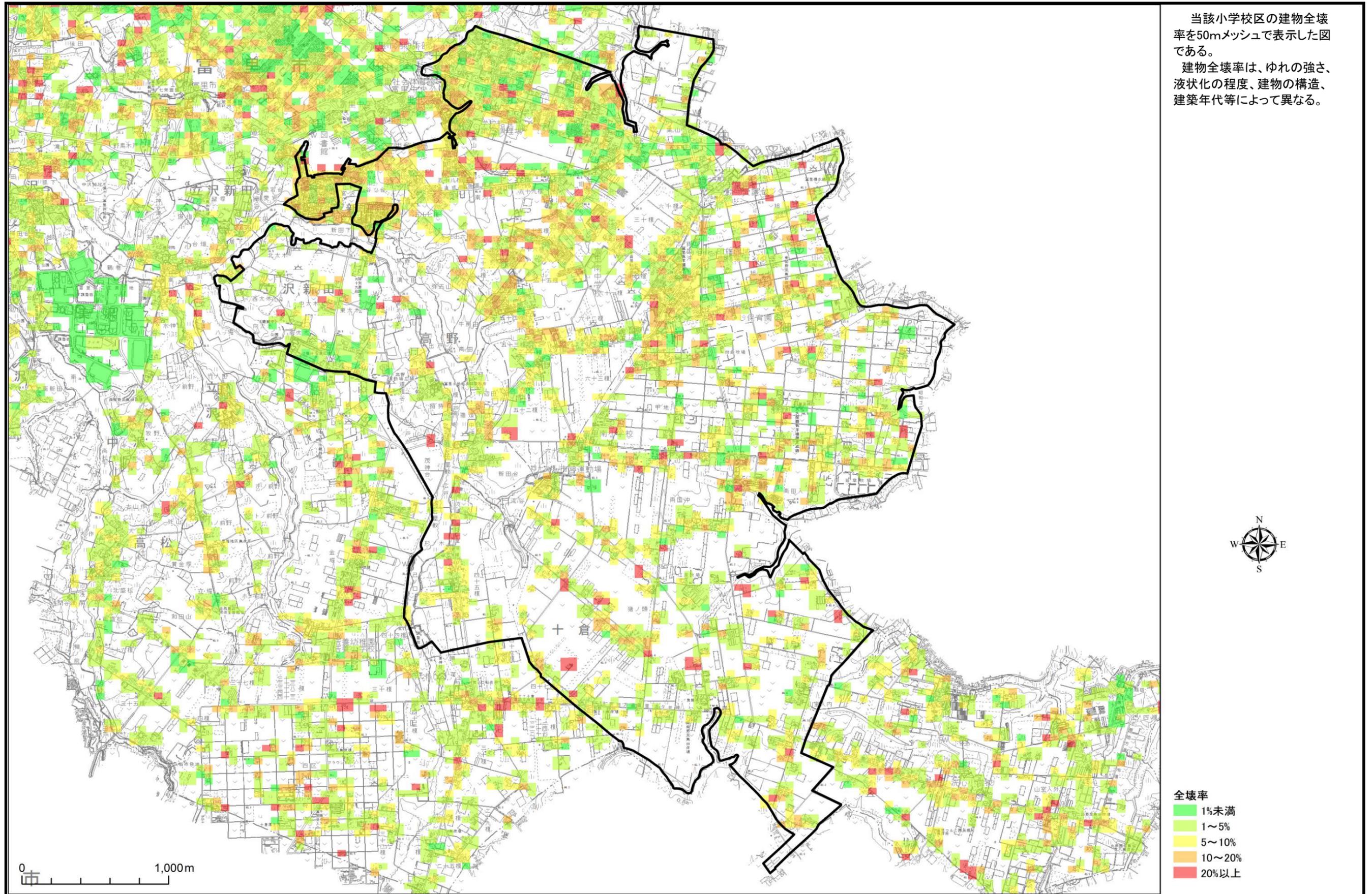
当該小学校区及びその周辺の避難場所、避難所、公共施設を表示した図である。

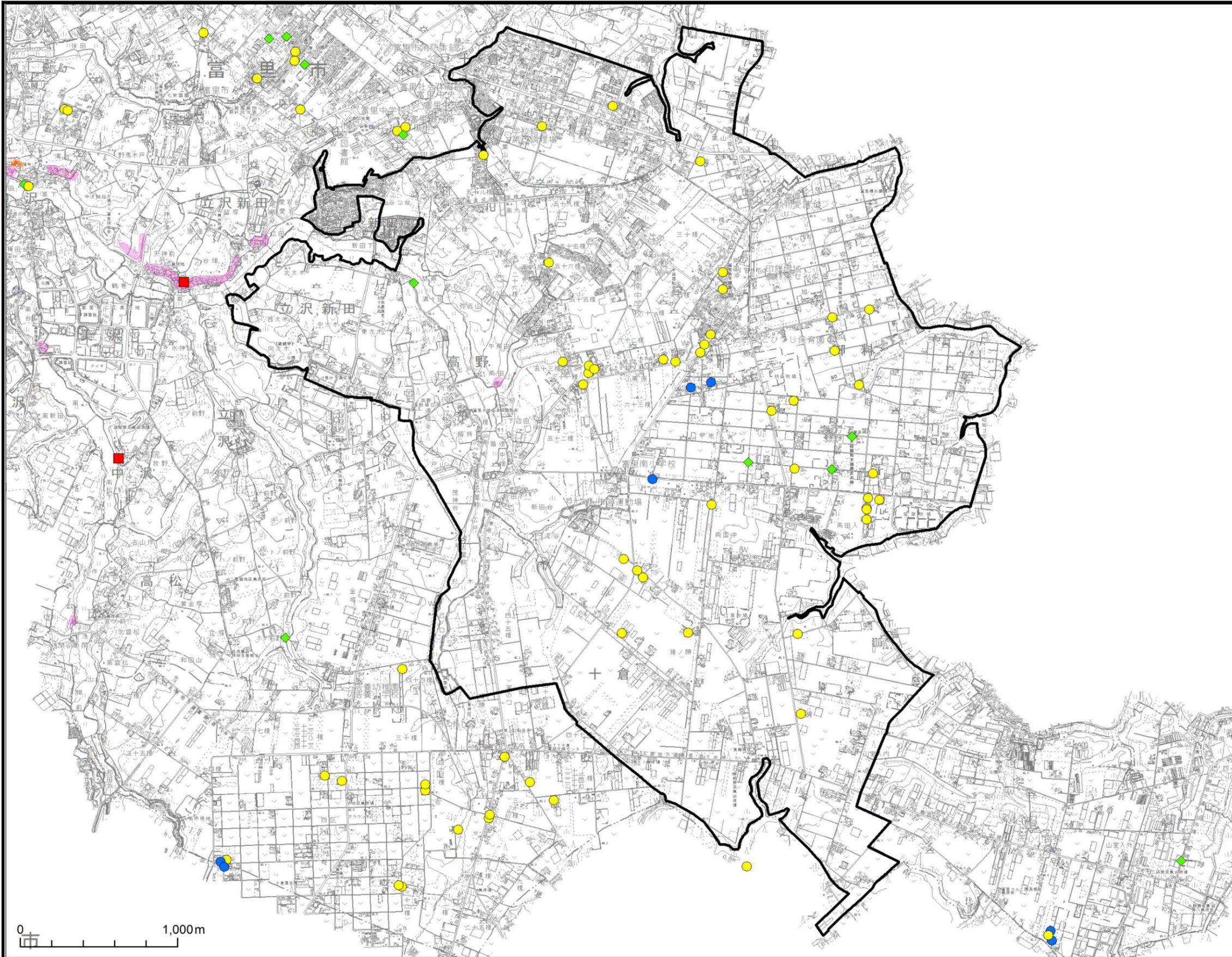


- 施設等
- 指定緊急避難場所
 - 指定避難所
 - 福祉避難所
 - 消防本部・消防署・分署
 - 駐在所・交番
 - ドクターヘリ離発着場
 - 防災行政無線屋外子局
 - 観測所
 - 市役所
 - その他公共施設
 - 郵便局
 - 要配慮者施設
- 緊急輸送道路
- 高速自動車国道
 - 一般国道
 - 主要地方道
 - 一般県道
 - 市道

0 1,000m







浸水想定区域および土砂災害の危険な箇所等、浸水等の被害箇所を示した図である。
 浸水想定区域は、浸水被害想定調査で対象とした河川のうち、根木名川の浸水想定区域を浸水深別(0.5m未満、0.5～1.0m、1.0～2.0m、2.0～5.0m、5.0m以上)に表示した。
 土砂災害は、土砂災害警戒区域・特別警戒区域(急傾斜地の崩壊)、急傾斜地崩壊危険箇所、山腹崩壊危険地区を表示した。
 浸水等被害箇所は、床下浸水、床上浸水、崖くずれ、道路冠水別に示した。

※浸水想定区域図とは、水防法により河川管理者が、降雨により河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を示したものである。



- 浸水等被害箇所
 - 床下浸水
 - 床上浸水
 - 崖くずれ
 - ◆ 道路冠水
- 土砂災害警戒区域等
 - 土砂災害特別警戒区域
 - 土砂災害警戒区域
- 急傾斜地崩壊危険箇所
 - 急傾斜地崩壊危険箇所
- 山腹崩壊危険地区
 - 山腹崩壊危険地区
- 根木名川浸水想定区域
 - 想定浸水深
 - 0.5m未満の区域
 - 0.5～1.0m未満の区域
 - 1.0～2.0m未満の区域
 - 2.0～5.0m未満の区域
 - 5.0m以上の区域